

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号	20	学校名	池田高等学校
------	----	-----	--------

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域に根ざし、地域と連携するユネスコスクールとして 地域の活性化や課題解決に向けた探究的な学びを通して 何事にも挑戦し持続可能な社会の発展に貢献できる人材の育成を目指す学校	
学校教育目標 (教育方針)	～生徒一人一人を大切にし、E S D (持続可能な開発のための教育) を推進するユネスコスクール～ 校訓「向学・友愛・練磨」の下、明るく規律ある学校生活を通して、「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな、心身ともに健全な人間形成を期すとともに、持続可能な社会の発展に 貢献できる人間の育成に努める。	
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【G P】	<ul style="list-style-type: none"> 池高で身に付けた知識やスキルを活かして、自立(自律)し、自分で考え、困難に立ち向かう努力ができる生徒 池高で伸ばした個性や知性を武器に、環境の変化を恐れず、自信をもって挑戦できる生徒 池高で育んだユネスコスクール等の理念を誇りに思い、持続可能な地域・社会・未来の実現に向けて、多様な人々と協働しながら、地域のリーダーとして行動できる生徒
	生徒をどう 育てるか 【C P】	<ul style="list-style-type: none"> 個々の生徒の能力や学習状況等に応じて常に工夫改善し、生徒自らが学力の定着と向上を図っていく、探究的な授業の実施 授業や課外活動で培った知識・スキルを活かし、主体的で協働的な探究活動を通じて、自身のキャリアステージにつなげる「総合的な探究の時間」の実施 ユネスコスクールとしてE S D、S D G sを推進し、グローバルな視点を持ちながら、地域と協働する実践的な探究活動の実施
	どんな生徒を 待っているか 【A P】	<ul style="list-style-type: none"> 将来の夢や目標に向け、自分の基礎を築き、自分の強みを伸ばすために、探究的な学びに挑戦したい生徒 自身をしっかり見つめ、さらに多様な他者との対話を通して、考えを広め深める体験がしたい生徒 ユネスコスクールの理念に賛同し、福祉・環境・国際等の分野で活躍したい生徒
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> 探究を教育課程の主軸と位置付ける本校において、各教科における探究的な学びに向かう資質の育成 自ら自己指導力や規範意識を高め、安心安全な学習環境を整えることができる生徒の育成 多様な考え方や立場・意見、異なる価値観に触れ、自らの考えを表現する論理的思考力・表現力の育成 業務量と働き方改革推進のバランス 	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学校経営	保護者や地域の期待に応える魅力ある学校づくりを目指すとともに、働きやすい職場づくりに努める。
	学習指導	主体的・協働的な学びを通して、豊かな人間性と自ら学び自ら考える力を育成し、新しい時代を生き抜くために必要な力を育成する。
	進路指導	自己の能力や適性を正しく理解し、将来を見通した進路目標を確立し、その進路実現に向けて主体的に行動する能力や態度を育成する。
	生徒指導	全職員による「生徒指導はあらゆる教育活動のなかで機能すべきである」という共通認識のもと、望ましい人間関係を築く力と自己指導能力を育成する。

年 度 目 標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標
学校経営	自ら課題を設定し、主体的に判断・行動し、よりよく問題解決を図る生徒の育成	施策Ⅰ-1	生徒及び保護者等アンケートにおいて学校生活の充実に関する項目での肯定的評価の割合
	地域や外部教育機関と連携し、多様な人々と協働しながら地域のリーダーとして行動できる生徒の育成	施策Ⅰ-4	探究的学習活動やボランティア活動等での外部との連携や活用の実施数
	出退勤管理システムによる正確な勤務時間管理を行い、自己の働き方を見直す。	施策Ⅳ-27	時間外在校時間4.5時間を超える職員数
学習指導	個別最適化された学びに対する職員研修を活発に行い基礎基本の定着と学力の向上を図る。	施策Ⅳ-26	年2回の生徒授業評価(授業の理解度評価)
	探究的な学びを全科目に取り入れ、他者と協働して主体的に取り組む姿勢を育成する。	施策Ⅱ-8	年2回の生徒授業評価(探究的な学びに対する生徒の実感評価)
	探究活動を通して、持続可能な将来の実現に向けて課題を発見し解決するための資質・能力を育成する。	施策Ⅰ-1	探究の時間の成果物 外部コンテストの成績 年2回の生徒授業評価
進路指導	発達段階に応じた進路ガイダンスの実施により進路意識の高揚を図る。	施策Ⅰ-1	キャリアパスポート内「一年間の振り返り」における肯定的評価
	地域や上級学校との連携による組織的・計画的な進路指導を行う。	施策Ⅱ-13	コース別ガイダンスの内容の充実と参加率の向上
	学習支援システム(スタディサプリ)の効果的な運用と、ICTを活用した小論文・志望理由書対策を行う。	施策Ⅱ-9	スタディサプリの活用率の向上
生徒指導	時間励行(遅刻防止)と明るい挨拶の実践による生活指導を行う。	施策Ⅰ-3	出席状況、保健室及び教育相談室の利用状況、SCの利用状況
	身だしなみ・着こなしに係る指導や集団生活のルールを徹底することにより、安心できる集団作りを行う。	施策Ⅲ-19	「心のアンケート」
	自他を尊重する態度を養い、他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する。	施策Ⅰ-2	各行事におけるアンケート

年 度 末 評 価 (自 己 評 価)																		
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D															
<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な探究の時間」を軸に、1年次では、探究の基本的スキル習得や資質を育成し、2年次では、主に地域課題解決型の探究的な学びを深めた。特に大垣工業高校・県内企業と協力し、かまどベンチの作成に取り組み、学校と地域・企業が連携して防災設備を整備する貴重な機会となった。 出退勤管理システムによる正確な打刻を呼びかけ、時間外在校時間4.5時間を超える職員には必ずその理由を確認し、改善策について面談を行った。 	B	<p>○生徒・保護者アンケートにおいて、充実した学校生活や地域や外部との連携に関する関連項目で肯定的評価が、平均して90%を超えており、高い評価を得た。</p> <p>○岐阜県による、高校2年生対象の「高校生の意識に関する調査」において、地域理解を示す値や、日ごろの授業で生徒間で協働しながら自分の考えを深めていると考える肯定的な回答の値が県平均より高かった。</p> <p>▲時間外在校時間の平均値は年々下がってきてはいるが、職員により差があること。</p>	B															
<ul style="list-style-type: none"> 年3回の教育課程委員会に加え、県外視察の報告会や授業研究会を適宜実施したり、AIに関する学習会を行うなど、年3回の「研修の日」を新設するなどして研修に努めた。その結果、年2回授業評価では、全項目において90%以上の肯定的評価を得た。 「総合的な探究の時間」に関する学校評価アンケートでは、外部連携について、生徒の90%、保護者の75%が肯定的な評価を示した。 	A	<p>○全職員によるカリキュラム・マネジメントのもと、来年度入学生に向けた新カリキュラムを作成し、県内外の先進校視察を行った。</p> <p>○外部コンテストへの参加や受賞、池田町公民館での探究成果報告会の実施を通して、日頃の探究活動を発表する場を設けることができ、生徒が学びを地域や社会へ発信する機会が広がり、意欲向上にもつながった。</p> <p>▲新カリキュラムの実施に向け、理数探究基礎の年間計画の整備とフィールドワーク推進を、職員がチームで進められる体制づくりを行う。</p>																
<ul style="list-style-type: none"> 1年次および2年次就職者および希望者にハローワーク職業講話を実施し、働くことの意義や将来の進路について考えさせた。 コース別ガイダンスを実施し、上級学校や地域と連携した進路指導を行うことで、進学に対する理解を深めた。 スタディサプリの到達度テストを実施し、生徒一人一人の理解度や到達状況を把握した。生徒のICT活用をより充実させた。 	A	<p>○進学・就職希望者どちらも働くことへの理解を深めさせ、早期から将来を見据えた進路意識を高めることができた。</p> <p>○2年次の探究活動が進路実現に繋がり、有意義な進路選択をすることができた。</p> <p>▲学力を図る外部模試との連携が課題である。</p> <p>○ICTを活用し、個別最適化された学習支援を実現することができた。今後は、個々の学習意欲の一層の向上を図る必要がある。</p>																
<ul style="list-style-type: none"> 20日以上欠席者数 R5年度20名(内30日以上欠席者14名) R6年度13名(内30日以上欠席者5名) R7年度15名(内30日以上欠席者6名) 保健室利用 R5年度515名、R6年度458名、R7年度469名 教育相談室利用 R5年度0名、R6年度0名、R7年度0名 SC利用状況 R5年度17件、R6年度14件、R7年度15件 スペシャリストサポート事業の活用状況 R5年度1名、R6年度1名、R7年度0名 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「心のアンケート」【心の不調を感じている】生徒数 <table border="1"> <tr> <td></td> <td><R5年度></td> <td><R6年度></td> <td><R7年度></td> </tr> <tr> <td>第1回(5月)</td> <td>15名</td> <td>7名</td> <td>16名</td> </tr> <tr> <td>第2回(9月)</td> <td>17名</td> <td>11名</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>第3回(11月)</td> <td>11名</td> <td>9名</td> <td>10名</td> </tr> </table> ○行事において、人間関係に起因する不安や心理的負担を抱える生徒が徐々に増加してきている。SCやSSW、外部機関と連携し、早期に把握し、適切な支援を行っている。 ▲人間関係以外の要因により欠席が長期化する生徒への対応について、さらなる工夫が必要である。 		<R5年度>	<R6年度>	<R7年度>	第1回(5月)	15名	7名	16名	第2回(9月)	17名	11名	6名	第3回(11月)	11名	9名	10名
	<R5年度>	<R6年度>	<R7年度>															
第1回(5月)	15名	7名	16名															
第2回(9月)	17名	11名	6名															
第3回(11月)	11名	9名	10名															

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年1月28日

<ul style="list-style-type: none"> ホームページによる情報発信をこれまで通り随時行うとともに、更新のタイミングや掲載内容を保護者へ積極的に周知する体制を整える。特に、スクールミッションや本校の探究活動に関する情報については、分かりやすく整理し、保護者の理解促進につながるよう、発信方法や掲載内容の改善を図る。 来年度の新カリキュラムの実施、および再来年度から始まるフィールドワークの活性化に向け、準備を進めるとともに、外部の協力体制を強化する。 来年度は、模試の系統数を精選し対象を明確にすることで、効果的な進路指導を行う。あわせて総合型選抜・推薦入試への対応をさらに充実させ、生徒一人一人の志望や適性に応じた支援を強化し、納得のいく進路実現につなげていきたい。 「生徒指導だより」や「教育相談だより」の発行回数を増やし、生徒・保護者に対して必要な情報を継続的かつ分かりやすく発信する。 SNS利用や情報端末の適切な活用について、具体的な事例を用いた指導を行うなど、情報モラルに関する指導方法の工夫・改善を図る。
--

学校関係者評価

実施日：令和8年1月28日

<ul style="list-style-type: none"> 探究活動を通して、チームによる学びや自己実現につながる活動が多数見られた。これらの活動は、生徒が自己理解を深めながら自分の将来像を描くことにつながり、自分を客観的に捉える視点が伺えた。活動の広がりや、自己実現(進路実現)や欠席者支援の取り組みとも一つの流れの中で結びついているのではないかと。 常に新しい取り組みにチャレンジし、そのような取組みに対して、学校には一定の限界もあるかもしれないが、外部機関との協力を適切に活用し、教職員が全体を調整していることは、学校活性化に寄与していると考えている。 地域を含む学習環境を持続可能にするためには、最終的に循環して回る仕組みを作ることが重要である。その観点からも、本校の取組は、学校としてのアウトプットに確かに結びつき始めていると評価できる。 育てたい生徒像「リーダー」について、リーダーには、組織を牽引するタイプのリーダーもいれば、他者を支援する側のリーダーも存在する。必ずしもトップに立つことだけがリーダーではないという視点が必要ではないかと。 校内外のイベントが多いことは、生徒にとって嬉しい側面がある一方で、逆にそのイベントを負担として捉える生徒がいる。不調の背景は多様化しているため、生徒一人ひとりの状況に寄り添い、丁寧なケアを行うことが重要であると考えている。
